



駒澤大学

第1回 学生シンポジウム

ご挨拶

はじめまして、駒澤大学経済学部ゼミナール連合会学生シンポジウム担当の齊藤龍馬です。お忙しい中、学生シンポジウムのパンフレットをご覧になっていただき誠にありがとうございます。この度、経済学部ゼミナール連合会は、駒澤大学全学生を対象にした学生シンポジウムを開催する運びとなりました。今回の催しは第1回目ということもあり、最初は果てしない道のりに思えましたが、経済学部を中心に各学部の様々なゼミが参加し、参加人数は200人を超える予定です。参加していただいた各ゼミ生のみならず、当日は様々な議論を交わしながら、お互いの研究をより良いものにしていきましょう。

最後になりましたが、ご協力くださいました駒澤大学：学長の廣瀬先生、教務部長の猿山先生に厚くお礼申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

駒澤大学経済学部ゼミナール連合会学生シンポジウム担当：齊藤龍馬

趣旨

私たち経済学部ゼミナール連合会が「学生シンポジウム」を開催する趣旨は大きく分けて2つあります。

第1に、私たちはこれまでゼミで自分たちを取り巻く様々な問題に目を向け、研究を続けてきましたが、その過程で他の領域の学問分野の知識を要求されることに気がつきました。これだけ複雑化している社会にあって、私たち学生は他の学問に目を向けずに、自分たちが学んでいる学問だけに目を向けていればよいのでしょうか。逆に、経済学部で学んでいることは他学部とは一切関係がないとも思えません。

そこで、「学生シンポジウム」を通して、他学部の学問研究に刺激を受けると同時に自らの見聞を広げることで、各々の学部で取り組んでいる学生個々の研究がより洗練されていくのではないかと考えます。総合大学に学んでいる好条件を存分に活かして、学生どうしの学問的な研さんの機会を得たいと考え、「学生シンポジウム」を開催いたします。

第2に、駒澤大学を学問という観点から盛り上げていくためです。本大学は駅伝や野球等のスポーツがよく注目されていますが、学問分野での注目度の高さは残念ながらスポーツほどではないと考えます。学問、スポーツ、この両方から駒澤大学を盛り上げていくために、私たちは全学部規模の「学生シンポジウム」の開催を考えました。

以上が「学生シンポジウム」の趣旨となっております。

Program

【日程】 2015年11月15日（日）

【時間】 11時～ 開場及び受付開始時間

12時～ 開会式

13時～ 発表開始時間

【場所】 開会式: 8号館 -150

発表場所: 7号館 405~408, 507~510

※受付場所（時間によって異なります）

8号館-150 教場前 （11時から12時30分）

7号館4階中央階段前 （12時30分から16時35分）

※来場者は必ず最初に受付を済ませてください。

なお、8号館での受付を済ませた方は7号館での受付は不要です。

◇ 各分科会のテーマ

「地域活性化を考える」「経済理論と政策」「共生社会への模索」

「企業経営と雇用」「流通の多様化と金融」「格差と社会的責任」

「企業と地域の生き残り戦略」「マーケティングと商品開発」

◇ 参加ゼミ

経済学部(明石ゼミ、姉齒ゼミ、江口ゼミ、小西ゼミ、瀬戸岡ゼミ、中済ゼミ、

長山ゼミ、百田ゼミ、松本ゼミ、宮田ゼミ)、法学部(富崎ゼミ)

経営学部(青木ゼミ、中野ゼミ)、GMS学部(テヅカゼミ)

◇ タイムスケジュール

| 時間 | 内容 | 場所 |
|-------------|----------------|------------------------|
| 12:00 | 開会式 | 8号館-150 |
| 13:00~13:35 | 1 チーム目：発表・質疑応答 | 7号館 405~408,507~510 |
| 13:45~14:20 | 2 チーム目〃 | |
| 14:30~15:05 | 3 チーム目〃 | |
| 15:15~15:50 | 4 チーム目〃 | |
| 16:00~16:35 | 5 チーム目〃 | |
| 17:00~18:30 | 懇親会 | 学生食堂1階 |
| 18:30~19:00 | 閉会式 | |

※発表時間は20分、質疑応答は15分、計35分となります。

※質疑応答終了毎に10分間の休憩をはさみます。

◇ 会場説明



◇ 7号館内会場配置

| 4階 | | 階段 | 404 | 7-405 | 7-406 | 7-407 | 7-408 |
|----|----|----|-----|-------|----------------|-------------|-------|
| EV | WC | | | | 「企業と地域の生き残り戦略」 | 「格差と社会的責任」 | |
| | | 受付 | 廊下 | | | | |
| 5階 | | 階段 | 506 | 7-507 | 7-508 | 7-509 | 7-510 |
| EV | WC | | | | 「マーケティングと商品開発」 | 「流通の多様化と金融」 | |
| | | | 廊下 | | | | |

分科会テーマ目次

| | |
|----------------------|----|
| 「企業と地域の生き残り戦略」 | 5 |
| 「格差と社会的責任」 | 7 |
| 「企業経営と雇用」 | 9 |
| 「共生社会への模索」 | 11 |
| 「マーケティングと商品開発」 | 13 |
| 「流通の多様化と金融」 | 15 |
| 「経済理論と政策」 | 17 |
| 「地域活性化を考える」 | 19 |

「企業と地域の生き残り戦略」

教場：7-405
代表者：中島亮佑

◇ 参加ゼミ名

経済学部 江口ゼミ、経済学部 小西ゼミ、経済学部 瀬戸岡ゼミ
GMS 学部 テヅカゼミ、経済学部 宮田ゼミ

| 時間 | 内容 |
|-------------|----------------|
| 13:00~13:35 | 江口ゼミ：えぐたんぬ B |
| 13:45~14:20 | 宮田ゼミ：貧困組 |
| 14:30~15:05 | 小西ゼミ：メカ・サプライヤー |
| 15:15~15:50 | テヅカゼミ：映画組 |
| 16:00~16:35 | 瀬戸岡ゼミ：ゆーとぴあ |

◇ 各ゼミ趣意文（要約）

経済学部 江口ゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|---|----|-------|
| えぐたんぬ B | 7 | 選挙権 |
| <p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>私たちのグループは選挙年齢の引き下げに及ぼす影響を中心に選挙制度の見直し、投票率、若者の関心などについて研究し新たな策を提案していく。</p> | | |

経済学部 宮田ゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|--|----|-------------|
| 貧困組 | 6 | アフリカの貧困について |
| <p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>豊富な資源が眠るアフリカ大陸。それにも関わらず世界の際貧困人口の三分の一をアフリカが占めているのはなぜだろうか。また世界の貧困層の平均所得は増加しているのにアフリカにはそれがみられない。わが班は長期にわたり貧困に苦しむアフリカ諸国にスポットをあて貧困について考察する。</p> | | |

経済学部 小西ゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|---|----|-------------------|
| メカ・サプライヤー | 4 | アイシン精機の生き残りをかけた戦略 |
| <p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>この研究では、将来的にアイシン精機が生き残るためにはどのような戦略を採らなければいけないのか、というテーマに基づきアイシン精機の将来について明らかにしていく。</p> | | |

GMS 学部 テヅカゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|---|----|----------------|
| 映画組 | 3 | 映画が地域活性化に与える影響 |
| <p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>最近では、映画やテレビで使用した場所を訪れる人も多く、地域活性化を目的として積極的にロケ地の招致を行っている町もある。しかし、一時的なブームとしてロケ地に人が集まることはあるかもしれないが、いつまでも続くとは限らない。実際にロケ地になった場所で映画撮影の協力をした自治体の人に映画による地域活性化の期待と実際を取材する。その取材内容を踏まえ、持続的な効果を持たせるために何をすべきなのかを提案する。</p> | | |

経済学部 瀬戸岡ゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|--|----|--------|
| ゆーとぴあ | 13 | 商店街活性化 |
| <p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>本来、商店街は地域コミュニティの核を担うもので、欠かせないものであったが、時代の流れと共に衰退し、特に地方ではシャッター商店街の数も年々増加傾向にある。こういった問題にどう対処していくべきか、大きいテーマではあるが、一つ一つも解いていこうと考える。</p> | | |

「格差と社会的責任」

教場：7-406
代表者：岩瀬裕治

◇ 参加ゼミ

経済学部 姉齒ゼミ、経済学部 小西ゼミ、経済学部 中済ゼミ
経済学部 宮田ゼミ、経済学部 百田ゼミ

| 時間 | 内容 |
|-------------|-----------|
| 13:00~13:35 | 百田ゼミ：百田1 |
| 13:45~14:20 | 小西ゼミ：完成車班 |
| 14:30~15:05 | 中済ゼミ：Cチーム |
| 15:15~15:50 | 姉齒ゼミ：じゅう |
| 16:00~16:35 | 宮田ゼミ：格差組 |

◇ 各ゼミ趣意文（要約）

経済学部 百田ゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|---|----|------------------|
| 百田ゼミ1 | 5 | CSR評価で見つけるホワイト企業 |
| 〈研究テーマについての趣意文〉 本研究ではまず、ブラック企業、ブラックバイトの実態を整理しブラックとは何かを再確認する。ブラック問題はCSR、とりわけ人権・労働CSRの中心的なテーマでもある。そこで、今日、グローバル企業の国際行動規範であるISO26000に基づきブラック問題を検討する。ひるがえって働きやすい職場(ホワイト企業)の条件を明らかにする。 | | |

経済学部 小西ゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|--|----|-----------------|
| 完成車メーカー | 3 | 自動車産業におけるトヨタと日産 |
| 〈研究テーマについての趣意文〉 完成車メーカーチームでは、トヨタと日産の企業歴史を明らかにしながら経営形式の全容を明らかにし、分析するとともに、今の自動車生産に必要な「モジュール化」に関しての両社のアプローチの相違について述べていく。 | | |

経済学部 中済ゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|--|----|---------------|
| 中済ゼミ C チーム | 6 | LINE によるいじめ問題 |
| 〈研究テーマについての趣意文〉 LINE いじめの原因に、既読機能、環境、グループ機能などの問題点が挙げられる。私たちはそれらを調べ上げ、解決策を探っていく。 | | |

経済学部 姉齒ゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|---|----|---------|
| じゅう | 3 | 現代の格差問題 |
| 〈研究テーマについての趣意文〉 所得格差の背景には、ニュースなどで報道される発展途上国の人材育成のためという表向きとは全く違い、政府の政策が企業を後押ししているという現状がある。また、他学部の学生との討論によって様々な角度や視点から見た格差に対する見解も参考に、検証していきたい。 | | |

経済学部 宮田ゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|--|----|-------|
| 格差組 | 7 | 現代の格差 |
| 〈研究テーマについての趣意文〉 世界では格差問題が深刻化している。日本も例外ではなく、例えば正規雇用者と非正規雇用者との賃金格差など、資本主義の発展による矛盾が出てきている。理論の根拠として経済学者トマ・ピケティを参考にしながら格差について考察していく。 | | |

「企業経営と雇用」

教場：7-407
代表者：小林 豊

◇ 参加ゼミ

経済学部 小西ゼミ (2, 3年別)、経済学部 宮田ゼミ、経営学部
中野ゼミ、経済学部 百田ゼミ

| 時間 | 内容 |
|-------------|---------------|
| 13:00~13:35 | 小西ゼミ：ハイマーチーム |
| 13:45~14:20 | 小西ゼミ：Alps チーム |
| 14:30~15:05 | 宮田ゼミ：雇用組 |
| 15:15~15:50 | 百田ゼミ：百田2 |
| 16:00~16:35 | 中野ゼミ：B チーム |

◇ 各ゼミ趣意文 (要約)

経済学部 小西ゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|--|----|--------------|
| ハイマーチーム | 4 | ハイマーの優位性について |
| <p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>今日の多国籍企業論の基礎が築かれたのは1960年代である。</p> <p>ハイマーの理論によって現在の多国籍企業がある。ハイマーの理論を取り上げて多国籍企業の基礎を考えていく。</p> | | |

経済学部 小西ゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|---|----|---------------------|
| 小西 ALPS | 3 | 電子部品産業における自動車市場参入状況 |
| <p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>電子部品産業であるアルプス電気について歴史、事業内容、営業戦略などについて研究したことをまとめる。詳しくは車載用電子部品、完成車メーカーとの取引や関係、海外進出など論文の課題としてあげていることを中心に発表していく。アルプス電気が電子部品産業としてどういった戦略をとり成長していくのかを調べていく。</p> | | |

経営学部 中野ゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|---|----|-------------------|
| 2年B班 | 5 | ダイレクト・マーケティングについて |
| <p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>ダイレクト・マーケティングとは、通常の販売方法や広告とは違い、顧客からレスポンスを得るといったところに重点を置いている。代表的なダイレクト・マーケティングとして通信販売やダイレクトメールが挙げられるが、近年はその範疇も広範となり、その捉え方も多様化してきている。</p> | | |

経済学部 宮田ゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|---|----|----------|
| 雇用組 | 7 | 雇用形態の多様化 |
| <p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>日本を取り巻く経済の変化の中で雇用形態は変わっていった。労働において雇用形態は重要な事柄であり、学び考える必要があると考える。わが班はこれまでの雇用形態の動向から今後の雇用の行く末について考察していく。</p> | | |

経済学部 百田ゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|--|----|--------------|
| 百田ゼミ2 | 5 | CSVは地球を救えるのか |
| <p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>私たちはまず、ポーターらが言うCSVとは何か、その概念を明らかにする。続いて我が国においてCSVの実践事例と言われるものを確認する。他方、CSVについてはそれが本来のCSRの発展形態と位置づけられるのか等多くの疑問も提起されている。そこで、CSRの諸課題と言われてきたものとCSVの取り組みを比較検討しCSVがもつ意義と限界を明らかにする。</p> | | |

「共生社会への模索」

教場：7-408
代表者：小出翔平

◇ 参加ゼミ

経済学部 明石ゼミ、経済学部 姉齒ゼミ、経済学部 江口ゼミ
経済学部 瀬戸岡ゼミ

| 時間 | 内容 |
|-------------|---------------|
| 13:00~13:35 | 明石ゼミ |
| 13:45~14:20 | 姉齒ゼミ：沖縄 |
| 14:30~15:05 | 江口ゼミ：えぐたんぬC |
| 15:15~15:50 | 瀬戸岡ゼミ：SPROUT+ |
| 16:00~16:35 | 富崎ゼミ |

◇ 各ゼミ趣意文（要約）

経済学部 明石ゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|---|----|-----------|
| 明石先生の子ら | 15 | 東日本大震災と復興 |
| <p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>2011年に起こった東日本大震災により東北は甚大な被害を受け、多くの死者を出した。その後、現在に至るまで復興が進められてきたが、どのような復興が行われ今はどうなっているのか、また未来に向け何が必要なのか考える。</p> | | |

経済学部 姉齒ゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|--|----|-------------|
| 沖縄 | 3 | 沖縄の基地問題について |
| <p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>戦後、日本が世界有数の経済大国へと発展していく一方、沖縄では1972年まで米軍の統治下に置かれていた。現在でも国土面積の0.6%にすぎない沖縄の地域に、米軍専用施設の約74%が集中し、県民生活を脅かす環境問題や沖縄振興開発を妨げる過度な基地負担など、沖縄に様々な悪影響を与えている。</p> <p>私は、「米軍基地問題を沖縄だけに押し付けるのではなく、われわれ本土の住民も一体となって、基地について考えていくことが必要だ」と考える。</p> | | |

経済学部 江口ゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|--|----|-----------|
| えぐたんぬC | 7 | 公共事業のこれから |
| <p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>私たちは、2020年に開催される東京オリンピック開催に向けて様々な事業や取り組みについて調べてきました。中でも注目したのが、公共事業についてです。私たちは、これからの東京オリンピックに向けて、また、その後の公共事業についてどのような側面があるかを調べています。</p> | | |

経済学部 瀬戸岡ゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|--|----|---------------------------------|
| SPROUT+ | 19 | 東京パラリンピックを見据えた、障がい者に対する国民の関心・理解 |
| <p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>2020年に国際的なスポーツ祭典である、オリンピックとパラリンピックが東京で開催されることになりました。そこで、障がい者に対する関心・理解が低いことに問題意識を置き、今後その改善策として1つのイベントを提案します。それによって、健常者と障がい者の共生社会、いわゆるノーマライゼーション社会へと変えていこうというプレゼンです。その過程の中で行われる東京パラリンピックまでにも少しずつ動くことで、よりその祭典を盛り上げ、さらにノーマライゼーション社会に近づけていこうと考えました。</p> | | |

法学部 富崎隆研究会

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|--|----|---------|
| 富崎隆研究会 | 14 | 日本の安全保障 |
| <p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>日本を取り巻く安全保障環境が一層厳しさを増す中、日米安全保障体制を強化し、日米の抑止力を向上させていくことは、日本の安全のみならず、アジア太平洋地域の平和と安定にとって不可欠な点である。</p> <p>本研究では、この安全保障制度が現在に至るまでの歴史的背景、また今後の安全保障について検証していく。</p> | | |

「マーケティングと商品開発」

教場：7-507
代表者：江田 聡

◇ 参加ゼミ

経営学部 青木ゼミ、経済学部 小西ゼミ、GMS 学部 テヅカゼミ
経営学部 中野ゼミ

| 時間 | 内容 |
|-------------|----------------|
| 13:00~13:35 | 小西ゼミ：トヨタの中国戦略班 |
| 13:45~14:20 | テヅカゼミ：小松チーム |
| 14:30~15:05 | 中野ゼミ：A チーム |
| 15:15~15:50 | 青木ゼミ |

◇ 各ゼミ趣意文（要約）

経済学部 小西ゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|---|----|-------------------|
| トヨタの中国戦略 | 4 | 中国におけるトヨタの環境自動車戦略 |
| <p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>中国の自動車市場は 2009 年に米国の自動車市場を追い越し、世界販売総台数の 4 分の 1 を占めるまでになり 2014 年まで 6 年連続で首位を維持している。現在、中国市場でシェアの大きいフォルクスワーゲンをトヨタ自動車との比較対象とし中国自動車市場のニーズについても言及する予定である。</p> | | |

GMS 学部 テヅカゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|---|----|----------------------------|
| 小松チーム | 2 | フレーバー検索判別サイト FlavorMap の開発 |
| <p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>日本を訪れる外国人観光客の数は年々増加している。クールジャパン政策の一環として我々が提案するのが、日本独自のお菓子やフレーバーの宣伝及び味の判別ができるウェブサイト” Flavor Map” である。しかし、その日本独自のフレーバーが実際にどのような味であるのかは外国人からは予想がし辛く、消費の妨げとなっている。加えて、フレーバーの数が多すぎる為に、そのフレーバーを効果的に外国人に伝える仕組みが求められている。以上二つの問題を解決する仕組みとして提案するのが Flavor Map であり、ウェブサイトの作成・実演を通してその必要性を伝える。</p> | | |

経営学部 中野ゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|---|----|--------------|
| A 班 | 5 | ダイレクトマーケティング |
| <p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>ダイレクトマーケティングとは、標的となる消費者と直接コミュニケーションを図り、企業と消費者とのリレーションシップを構築していくマーケティング方法。私たちはその中でも、「バナー広告」に注目して研究をする。</p> | | |

経営学部 青木ゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|--|----|------------------|
| 貝印プロジェクト | 5 | 貝印株式会社との合同プロジェクト |
| <p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>貝印株式会社と大学生の1人暮らし・料理のエントリーユーザー向けに来年の4月を目標に、商品開発とマーケティング案について月に1回、製品開発部長・コンサルタントの方へ向けたプレゼンを貝印本社で行っている。そこで、合同 PJ で得た経験、教訓をケーススタディとして発表する。</p> | | |

「流通の多様化と金融」

教場：7-508
代表者：高畑寛也

◇ 参加ゼミ

経済学部 小西ゼミ、経済学部 姉齒ゼミ、経営学部 中野ゼミ、
経済学部 中済ゼミ

| 時間 | 内容 |
|-------------|----------------|
| 13:00~13:35 | 中野ゼミ：Cチーム |
| 13:45~14:20 | 中済ゼミ：Bチーム |
| 14:30~15:05 | 姉齒ゼミ：金融班 |
| 15:15~15:50 | 小西ゼミ：対外直接投資チーム |

◇ 各ゼミ趣意文（要約）

経営学部 中野ゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|---|----|-------------------|
| C班 | 5 | Web とダイレクトマーケティング |
| <p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>本グループでは、マーケティング手法の1つであるダイレクトマーケティングを主軸に研究を進める。</p> <p>特に、近年発展が目覚ましい Web 上での販売手法とダイレクトマーケティングを関連付けて、定性調査および定量調査を用いて仮説の検証を行う。</p> | | |

経済学部 中済ゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|---|----|--------------|
| Bチーム | 6 | コンテンツマーケティング |
| <p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>海外では、コンテンツマーケティングが3年前くらいから盛り上がっているが、最近日本でも見込み客にとって価値あるコンテンツを作り続け、継続的な売上げを獲得する「コンテンツマーケティング」が広がっている。口コミにどのような機能があるからか、他のマーケティングの口コミとの違いは何かを調べていく上で、コンテンツマーケティングにおける口コミの重要性を見出していきたい。</p> | | |

経済学部 姉齒ゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|--|----|------------|
| 姉齒ゼミ 金融班 | 4 | 株価至上主義への警鐘 |
| <p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>昨今、日本の政策は株価至上主義へと舵を切りつつあるように思える。</p> <p>しかし、こうした株価至上主義の政策は、日本経済をマネーゲーム中心の経済へと偏向させてしまう恐れがある。このようなマネーゲームの中に、個人や年金基金の資金が晒されてしまっていることへの懸念や、マーケットが実体経済を適切に反映していないという問題点も生じている。</p> <p>我々は、こうしたマネーゲームは世界的な規模で行われているため、投機マネーへの規制や利益に対する適正な課税制度を用いて、国際的に規制する必要があると考える。</p> | | |

経済学部 小西ゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|---|----|---------------|
| 対外直接投資論チーム | 4 | 対外直接投資の理論について |
| <p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>なぜ自国ではなく海外に投資を始めたのか、そしてなぜここ最近で急速に直接投資が増大しているのか、そして直接投資の中心がアメリカなのか。</p> <p>こうした内容を説明していく中で関税、異なる通貨による影響、産業のパターンの違いによってなぜ投資額が変わるかなどの点を交えて検証を行いこの議題について研究する。</p> | | |

「経済理論と政策」

教場：7-509
代表者：宇野澤翔

◇ 参加ゼミ

経済学部 江口ゼミ、経済学部 小西ゼミ、経済学部 中済ゼミ
経済学部 宮田ゼミ

| 時間 | 内容 |
|-------------|--------------|
| 13:00~13:35 | 中済ゼミ：Aチーム |
| 13:45~14:20 | 江口ゼミ：えぐたんぬA |
| 14:30~15:05 | 小西ゼミ：リカードチーム |
| 15:15~15:50 | 宮田ゼミ：社会保障組 |

◇ 各ゼミ趣意文（要約）

経済学部 中済ゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|---|----|--------------------|
| 中済ゼミ A | 2 | ビックデータを活用したマーケティング |
| <p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>今日、様々な場面でビックデータが活用されている。そしてビックデータの活用が年々増加している。このようなことから私たちは新しいビックデータの活用方法を検討し、ビックデータの存在価値を見出していきたい。</p> | | |

経済学部 江口ゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|---|----|----------|
| えぐたんぬ A | 6 | 消費税増税の是非 |
| <p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>現在、日本ではアベノミクスにより、消費税が5%から8%へと引き上げられ、国民の約75%がこれに不満を抱いているという現実がある。</p> <p>しかし、一方で国債の発行量は年々増えており、この返済には何かしらの税の増税が必要であり、これに他を引き上げるか消費税を引き上げるかどちらが効果的であるのかということについて、様々な観点から検証していく。</p> | | |

経済学部 小西ゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|--|----|------------------------------------|
| リカードチーム | 3 | リカードの比較生産費説とヘクシャー＝オリーの生産要素賦存比率について |
| <p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>伝統的貿易理論であるリカード論とヘクシャー＝オリー論は、外国貿易の必要性や国際分業の基礎的理論として位置づけられているが、現実に当てはめるといくつかの問題が生じる。理論に対する逆説も唱えられている。</p> <p>私たちのグループでは、理論が誕生した時代背景や理論の限界と問題点、理論に対する新しい経済現象について研究している。</p> | | |

経済学部 宮田ゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|--|----|-------------|
| 社会保障組 | 7 | 日本の社会保障について |
| <p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>長く続いた不況により生活保護などの社会保障費は年々増加している。これらの問題を解決するのは急務である。また年金制度を少子高齢化のこの時代にいかにして次世代に残していくか課題は山積みである。わが班は日本の社会保障の現状と課題について考察していく。</p> | | |

「地域活性化を考える」

教場：7-510
代表者：室伏大祐

◇ 参加ゼミ

経済学部 小西ゼミ、経済学部 姉齒ゼミ、経済学部 長山ゼミ、
経済学部 松本ゼミ

| 時間 | 内容 |
|-------------|---------------|
| 13:00～13:35 | 姉齒ゼミ：チーム地域活性化 |
| 13:45～14:20 | 小西ゼミ：新貿易論チーム |
| 14:30～15:05 | 長山ゼミ |
| 15:15～15:50 | 松本ゼミ |

◇ 各ゼミ趣意文（要約）

経済学部 姉齒ゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|--|----|-------|
| チーム地域活性化 | 3 | 地域活性化 |
| <p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>地域活性化がなぜ持続的に成功しないのか、それが、昨年の新潟県三条市で行った夏合宿を通じて感じた最初の疑問であった。同時に、すでに徒労感に苛まれながら、それでも地域のために努力する地元の人々との交流をする中で、持続性のある活性化策とはいかなるものであるのかを検証していく。同時に要因として日本独自の流通構造で地域が犠牲になり、衰退が進んでいるのかなども検証していきたい。</p> | | |

経済学部 小西ゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|---|----|--------------|
| 新貿易論チーム | 4 | 新貿易理論・戦略的貿易論 |
| <p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>私達は新貿易理論・戦略的貿易理論について調べた。先進国の貿易が世界の貿易の大部分を占めているという現実である。</p> <p>具体的には、さまざまな貿易理論についてまとめ、違いを比べたり、現在増えてきているサービス貿易について調べた。</p> | | |

経済学部 長山ゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|---|----|-----------|
| 長山ゼミ | 6 | 地域活性化について |
| <p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>静岡県浜松市の抱える諸問題（既存産業、新興産業、コンパクトシティ形成など）を 実際地域に訪れヒアリング調査を行った結果から、自ら立てた仮説を立証し問題 の打開策を考える。また、浜松市にとどまらず広い観点から今後の日本の問題点と 照らし合わせて地域を見る。</p> | | |

経済学部 松本ゼミ

| チーム名 | 人数 | 研究テーマ |
|---|----|-----------------|
| 松本ゼミ | 16 | 大学生から見る協同組合の可能性 |
| <p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>私たち、松本ゼミは、「大学生から見る協同組合の可能性」というテーマを立て、 協同組合について研究している。定義・歴史、生協、農協、漁協、森林組合、労 協、中小組合、信金労金、医療生協、大学生協のグループに分かれ、各グループ が協同組合の果たすことのできる可能性について研究している。</p> | | |

主催：経済学部ゼミナール連合会
後援：駒澤大学 学長、教務部長、経済学部、経済学部同窓会
お問い合わせ先

学生シンポジウム運営担当:gakuseisymposium@gmail.com